## ○万松寺

境の境福山万松寺は、越後の村上の白竜山耕雲寺の末山で、鼻祖は瑚海中珊禅師という。この人は、応永（一三九四～一四二七）の頃、明朝に渡つたという。文明元年（一四六九）正月二十四日遷化、二祖は玉岩芸雲禅師といつて、世に鳴る知識をもつた人で中興の祖といわれている。

この人あるとき外にでて、もろこしの経山寺に、今火災のあることを知り、水びんの水を白山の祠比鎮の神の屋根にふりそそいで、もう大丈夫だろうといつて人にはなして聞かせた。そのことがあつてから三年後、はるばる寺より使僧が渡つて来て、失火の際はよく消火してくれたと、厚くお礼をのべ、千仏を織りたる廿五条の袈裟と、輝く水晶で作つた珠数をおいて帰つたという。この袈裟と珠数は相当の昔に紛失したという。これと同じ伝説は、雄勝郡湯沢の青竜寺、岩手県付馬牛村東禅寺にもある。

（荒　川）